



SVPインサイトVol.57

# 生成AIによるリサーチ業務の高度化

～生成AIの強みと弱みに見る、次世代リサーチ手法の在り方～

## I. ビジネス情報収集における生成AIの位置づけ

企業のリサーチ業務は、急速に変化する市場環境のなかで、情報量の増大とスピードの両立という根本的な課題に直面している。市場動向、消費者意識、競合情報は日々更新され、担当者は膨大なデータの中から必要な情報を選別し、意思決定に資する示唆を導くまでに多大な時間と労力を要している。従来型のリサーチ手法(アンケート、インタビュー、デスクリサーチなど)では、この圧倒的な情報量と変化速度に対応しきれない場面が増えている。

さらに、社内では調査データが部門ごとに分散される傾向があり、知見共有が進まないことで同一テーマの重複調査が発生し、組織全体のリサーチ効率を低下させる構造的課題も見られる。また、分析や示唆抽出が担当者の経験や主観に依存する場面も多く、再現性や客観性を確保することが難しい。外部調査会社の活用には高コストが伴い、内製化を進めようにも専門人材不足というボトルネックが存在する。



こうした複合課題を背景に、生成AI(Generative AI)は新たな「リサーチパートナー」として注目を集めている。生成AIとは、ユーザーの指示・要求に対して、テキストや画像、動画、音声などのオリジナルコンテンツを自動生成する人工知能(AI)のことである。この技術を活用することで、膨大なテキスト情報を高速で整理・要約し、多言語情報へのアクセス、リスト作成、文脈推定、論点整理など、従来では多くの時間を要していたプロセスの効率化を実現することができる。

情報処理の能力が飛躍的に向上したことで、企業は本来注力すべき「分析」「戦略立案」「判断」へリソースを再配分しやすくなる。以上のような情報環境の変化を踏まえ、生成AIがもたらす価値と限界、そして企業のリサーチ業務における具体的な活用の方向性について解説する。

## II.生成AIがもたらすリサーチ業務への価値

生成AIは、リサーチ業務を支える有力なツールとして位置づけられつつある。

正しく活用することで、業務の効率化やアクセス出来る情報源の拡大、コスト削減などの大きなメリットが得られる。



### 情報収集の効率化

生成AIは、学習した大規模なデータや外部情報源をもとに、膨大なウェブ情報、各種レポート、ニュースを自動で整理・要約し、リサーチニーズに沿った回答を提示する。これにより、従来型のキーワード検索等と比較して短時間で必要な情報を取得することが可能となる。



### 海外・多言語情報へのアクセス

多言語の文献や記事を自動翻訳し、要点を抽出できるため、海外市場の一次情報へ効率的にアクセスできる。これにより、グローバルリサーチのスピードとカバレッジが向上し、地域特性を踏まえた判断の精度を高めることができる。英語に加え、中国語やアラビア語など、幅広い言語の情報源にアクセスできる点は、調査範囲の拡大に寄与する。



### コスト削減とリソース最適化

情報収集や分析の自動化によって人件費と外部委託費を削減し、限られた人材を高付加価値業務へ再配置することで、コスト削減とリソース最適化が期待できる。特に、生成AIで代替が可能なWeb検索、リスト化、分析、要約、文書作成といった業務において、その影響が大きい。



### 分析スピードの向上

大量データの整理・要約・比較分析を短時間で実行できるため、分析プロセス全体のリードタイムを大きく圧縮できる。これにより、分析着手から結論に至るまでの時間が短縮され、意思決定プロセスの迅速化が進み、事業推進全体の機動性向上が期待される。





### Ⅲ.リサーチ業務で生成AIを活用する際の注意

リサーチ業務に生成AIを活用する際には、一定の前提条件や留意点が存在する。AIが事実とは異なる虚偽の回答を生成するハルシネーション、著作権や機密保護のような重大なリスクにもなりえる。



#### 情報の正確性に関する検証の必要性

近年、ハルシネーションという言葉をよく耳にするようになった。生成AIは、大量の情報をもとに自然な文章を生成できる一方で、事実と異なる内容を提示する場合がある。学習データの問題やモデルの特徴などが原因であるが、ユーザーはその特性を理解した上で使う必要がある。特にリサーチ業務においては、誤った情報を根拠とした判断を回避するため、生成された内容に対して人によるファクトチェックを行い、信頼性を担保する必要がある。



#### 著作権・表現の独自性に関する配慮

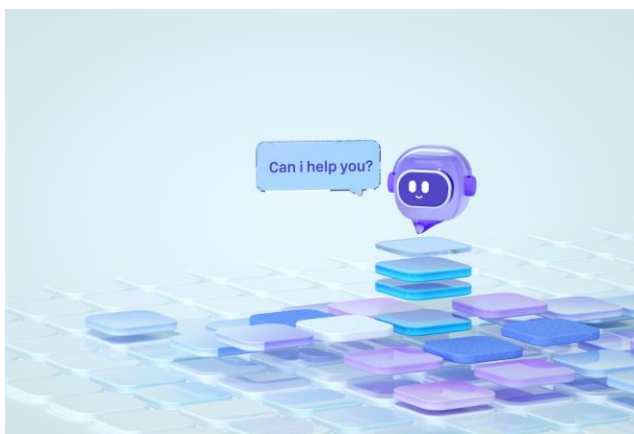
生成AIが学習データから生成した内容は、意図せず既存の著作物と類似する可能性がある。そのため、商用利用にあたっては、内容の独自性と権利関係を確認する必要があり、法的なリスクを必ず低減させる対処をしなければならない。



#### 入力情報の取り扱いと機密保護

生成AIサービスは、提供事業者や契約形態によってデータの取り扱いが異なる。入力情報が学習データとして再利用されて漏洩するリスクや、事業者側のログに残った情報が不正アクセスや内部不正によって流出する可能性も存在する。そのため、以下の点を事前に確認し、適切な設定や契約を行うことが重要である。

- ・利用するサービスのデータの管理方針
- ・学習データへの再利用の有無
- ・暗号化およびアクセス制御の仕様



## IV.リサーチ業務における生成AIの有用性

私たちSVPジャパンでは、リサーチのプロフェッショナルである当社の情報コンサルタントが、実際のリサーチ業務において生成AIを試験的に活用し、その有効性と課題を検証した。情報収集および分析工程への生成AI導入が、どの程度の効率化をもたらしうるかを把握することを目的に、実運用に近い形で評価を行った。

### 《調査対象の明確化とプロンプトエンジニアリング》

まず、生成AIを活用したデスクリサーチにおいて重要となるのは、検索対象の絞り込みとプロンプト(AIへの指示や質問文、命令文等のこと)の作成である。これらが適切に設定されていなければ、求める情報源にたどり着くことは難しい。

例えば、検索対象が広範であり、ひとつのプロンプトに複数の質問を含めた場合、生成AIの回答が浅くなり、推論で回答する確率が高まる傾向にある。極端なケースでは、生成AIが回答を途中で打ち切る事象も確認された。また、検索対象を明確に定義した場合でも、プロンプトで漠然とした質問をするのではなく、どのような視点から調査・分析をして欲しいのかを細かく指示することによって、ユーザーが想定しているイメージに近い回答を得ることができる。

検索対象の明確化は、プロンプト作成においても影響を与える。検索対象が適切に絞り込まれている場合、質問の構成や順序、構造化が容易になり、生成AIの回答精度の向上につながる。調査観点・前提条件・回答形式を明示するだけでも、生成される情報の粒度や方向性が整い、実務で扱いやすい内容となる。

そのプロンプト作成においては、自身が質問する内容に関して、生成AIはその背景や目的、求めていることは全く知らないということを認識しておかなければならない。そのため、プロンプトは詳細情報を含む、ある程度のボリュームが必要となる。ご存じのビジネスパーソンも多いであろうが、プロンプトは一般的に「自己紹介」、「調査の背景と目的」、「具体的な指示」から構成され、その全てを含めるべきである。

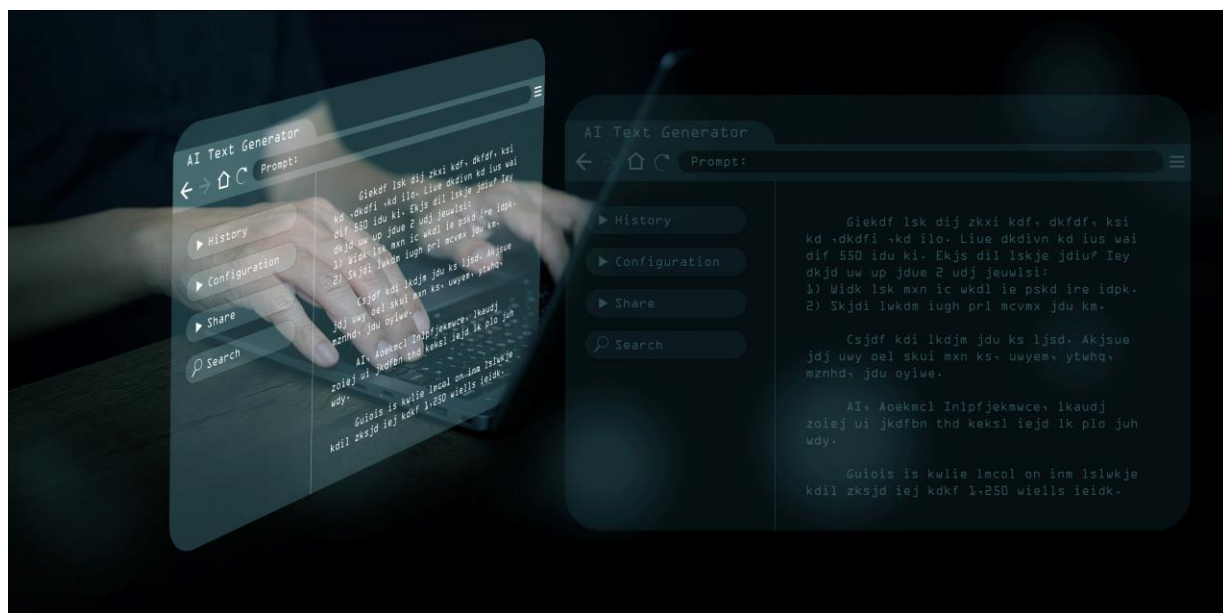
- ・ 自己紹介:「あなたは〇〇です」のように、当該調査を行う際に想定する業種や部署、役職を設定する。
- ・ 調査の背景と目的:なぜこの調査を行うのかの背景と、最終的には何を調べ、どのように活用したいのかの目的を、明確化する。
- ・ 具体的な指示:生成AIによる回答イメージに基づき、調査対象に関する細かな条件や調査・分析軸を定める。

当社の調査結果を見ると、プロンプトには上記の情報を含むこと、さらには、情報をカテゴリーごとに分けるなど、生成AIが理解しやすいように記載内容を整理・分類することで、生成AIのアウトプットの質が担保されることがわかった。また、それを導くためには、数行のプロンプトでは不十分であり、十分な指示が詰まった長めの文章を用意することもポイントである。

もうひとつ忘れてはいけないことは、事実に基づいた情報を引き出すための指示出しである。ビジネスリサーチでは、推察ではなく、ファクトベースの情報が求められる。ただ、生成AIを活用した場合、その構造上の問題から、誤情報や推測的な回答が提示されることがある。それを完全に排除することは出来ないが、プロンプトの「具体的な指示」を出す際に、生成AIの回答への条件や制約を明示することは有益である。以下が例である。

- ☑ 情報源を必ず明記すること
- ☑ 情報源は現在アクセス可能なURLに限定すること
- ☑ 情報がない場合は「ない」と明示すること
- ☑ 未確認の場合は「わからない」と明示すること
- ☑ 推論の場合は「推測ですが」と明示すること
- ☑ 推論よりも、出典に記載のある情報を優先すること

このような指示を明示することで、ビジネスリサーチで必ず求められるファクトベースの回答を導き出せる可能性が高くなる。また、これらの指示はChatGPTやPerplexity AIなどのカスタム機能で設定することが出来るため、併せて活用すべきである。



## 《生成AIが得意な調査領域》

検索対象を絞り込み、プロンプトエンジニアリング(生成AIから最適解を導き出すためのプロンプト最適化技術)を理解した上でリサーチを実施することで、生成AIは特定の領域において非常に有用なツールとなり、スピーディーに調査ニーズへの解を提示してくれる。

まず挙げられるのが、外国語圏の調査である。中国や中東諸国では、多くのビジネスや消費者に関する情報が現地語のみで提供されているケースが多い。生成AIは、このような日本語に翻訳されていない情報源へのアクセスを可能とするため、当該領域における企業や製品のサーチ、消費者行動、さらには規格や法規制等の抽出を容易にする。

次に、様々な情報のリストアップ作業に強いことも実証済である。国内外を問わず、条件に合致した企業や製品・サービス、価格、導入事例などを抽出する能力は高く、スピードの面ではWebのキーワード検索を上回る。また、生成AIはプロンプトの文脈を読み取って情報を収集するため、キーワード検索では煩雑になりがちな情報収集にも有効である。例えば、流行している事象の抽出において、キーワード検索では「注目」「人気」「トレンド」など複数語での検索が必要となるが、生成AIは内容を踏まえて総合的に回答を提示できる。これは、複数の特徴を持つ製品やサービス、テクノロジーの調査にも有効である。

文書情報の検索と要約も、生成AIの代表的な強い領域であろう。研究論文、技術文書、業界レポートといったテキストベースの情報を効率的に処理できる点は、明確な強みである。専門性が高く難解な論文の検索やその内容の概要把握、有価証券報告書や調査レポートなど長文ドキュメント内の特定内容の抽出は、その代表的な例である。

以上の点から、生成AIは新たなリサーチ手段として、特定領域で高い有用性を発揮することが確認された。さらに、適切な活用方法を設計することで、その価値を一層高めることができる。





## 《実存する生成AIが真価を発揮しないケース》

生成AIはリサーチ業務の効率化に大きく寄与する一方で、得られる情報の品質は学習データの内容と構造に強く依存している。一般に、多くの生成AIモデルは、公開されたWeb情報や大規模なテキストデータを中心に学習しており、書籍や論文についても権利処理が行われた範囲に限定して取り込まれている。このため、生成AIが提示する回答は、学習時のデータ構造やモデル内部の優先順位に左右され、利用者が求める最適な情報や高品質なデータが常に得られるわけではない。特にビジネス領域でのリサーチにおいては、この制約が顕著に影響する。

例えば、市場規模や産業動向に関する情報は、生成AIが参照できる範囲がプレスリリースやニュース記事といった「公開記事レベル」にとどまる傾向が強い。深い分析を伴う有料レポートや商用データベース、登録型Webサイトの内容は学習対象に含まれない。その結果、信頼性の高い統計データや精緻な推計情報に基づく分析結果を生成AIが直接提示することは難しい。

また、官公庁による統計資料やExcel形式で提供される構造化データといった、一次情報として価値の高い情報についても、生成AIが学習段階で十分にに取り込めていない傾向がある。そのため、実務で重要となる公式データや定量情報が回答に反映されず、表面的な内容にとどまる場合がある。

さらに、各生成AIツールの学習対象や情報の優先順位付けはブラックボックス化されており、ユーザーのリサーチニーズに対して意図した回答が得られないケースも少なくない。企業や製品のリストアップは生成AIの強みの一つであると本レポートで述べているが、その精度が常に担保されているわけではない。例えば、特定業界の主要企業5社を抽出させた場合、2社ほどは競争力が低い企業や、該当する事業を展開していない企業が含まれることがある。

最後に、専門性が極めて高く情報源が限定される分野や、最新の技術動向・仕様の把握といった情報の精度が求められる領域では、生成AIに限界があることも確認された。これは、生成AIが参照可能な情報ソースや更新頻度に依存しているためである。会計やファイナンス領域での応用的理解が難しい点や、ニッチで特殊な製造、工業、材料関連の情報検索に対して脆弱である点もその一例である。

このように、生成AIは有効な補助ツールである一方で、学習データに起因する構造的な制約から、「価値の高い専門情報」と「生成AIが出力しやすい一般情報」の間にギャップが生じるという根本的な弱みを抱えている。したがって、生成AIの出力をそのまま意思決定に用いるのではなく、必要に応じて一次情報、商用データベース、専門レポートなどと照合しながら活用することが不可欠である。



得意

← AIの得意領域 →

不得意



- ・外国語圏の情報収集
- ・条件に基づく企業・製品などのリストアップ
- ・文脈理解による総合的な情報収集
- ・長文ドキュメントの検索・要約

- ・市場規模・統計などの正確な数値提示
- ・公式統計データやExcelなどの精密な扱い
- ・リストアップ結果の精度保証
- ・高度専門分野の深い理解



## V.生成AI×カスタムのハイブリッド活用

マーケットリサーチにおいては、生成AIと従来型の調査手法を組み合わせた「ハイブリッド型リサーチ」が高い効果を発揮する。生成AIが提示する情報は、公開データやモデルが保持する知識に基づくため、実務で活用するにはファクトチェックが不可欠である。具体的には、生成AIが示した市場規模推計を総務省統計局や経済産業省の白書などの公式データで裏付ける、あるいは生成AIが提示した技術トレンドを論文・特許情報で検証するなど、一次・二次情報を組み合わせた検証プロセスが求められる。

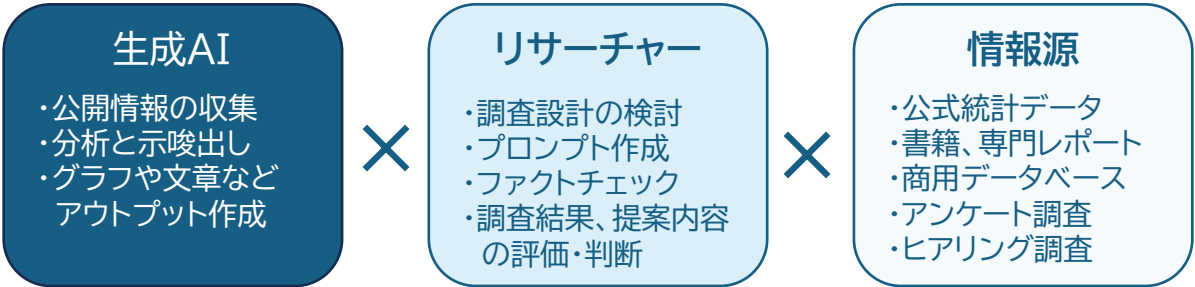
今後の理想形は、「生成AI × リサーチャー × 情報源」による三位一体の体制であろう。リサーチャーが調査設計を行い、プロンプトなど生成AIをツールとして使いこなした上で、生成AIが迅速に仮説や情報を提示、リサーチャーがその妥当性を精査、さらに従来型の信頼性の高い情報源を併用することで、調査の質は大幅に向上し、スピードと精度の両立が可能となる。

ただそれだけでは、十分ではないケースも多いであろう。自社の事業領域に踏み込んだ高度な調査においては、生成AIだけでは対応が難しい。特に、顧客や企業、有識者などから直接情報を得るヒアリング調査や、定量的な裏付けを得るアンケート調査は、現時点では生成AIが代替できない領域である。これらの生成AIが学習していない情報源にアクセスして活用できることが、生成AI時代にも必要不可欠である。

これからの企業には、生成AIの導入のみならず、調査とツールに精通したリサーチャーの育成、網羅的な情報源の確保をどのように実現するのかを真剣に考えなくてはならない。生成AIを活用しつつも調査の精度と信頼性を担保するためには、内製化だけでの対応は難しく、専門家による体系的な調査プロセスを併用することがポイントになる。

SVPジャパンの会員制マーケットリサーチ・サービスは、公式データ・商用データベース・独自の調査設計を組み合わせることで、生成AIだけでは補完できない深度の高い情報収集と分析を提供し、企業の意思決定を支援している。生成AIのスピードと、専門調査の精度。この両者の強みを掛け合わせることで、企業は変化の激しい市場環境において、より確度の高い判断を行うことができるのである。

### 三位一体の体制



「ハイブリッド型リサーチ」によりスピードと精度の両立が可能



1分でわかる

# SVP会員制 ビジネス情報サービス



# 1.ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

## 変化①

社会環境の変化



- ✓戦争の勃発
- ✓新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行
- ✓気候変動



## 変化②

ビジネス環境の  
変化



- ✓テクノロジーの進化
- ✓グローバル化
- ✓新世代の台頭
- ✓破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



## 2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1

### 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、  
スピーディーにアクセスできる  
環境の整備



2

### 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な  
ビジネス情報を収集できる  
環境の構築



3

### 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての  
市場や企業動向を認識する  
ケイパビリティの有無

### 3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

#### SVP会員サービス



##### 解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

##### 解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

##### 解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

## 4. サービス一覧



年間契約で3つのサービスをご提供します



### I. クイックリサーチ

#### 活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

#### 特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

**納期** 最短2日営業日以内

### III. SVPナレッジ

#### 活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

#### 内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPTrend調査

**配信頻度** 月1回以上

### II. プロジェクトリサーチ

#### 活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

#### 特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

**納期** 調査内容に応じて決定



## 5.導入実績



年間調査実施数  
約15,000件



商用DBシステム利用  
20システム



国内外企業財務情報  
4,000万社以上



SVPネットワーク  
世界40カ国の広がり

## 日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





## —SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

### クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

### プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



## —各種お問い合わせ—

### 資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



### お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît  
**SVP JAPAN**  
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

**TEL:03-3249-0771**

